

がん対策部会の開催状況等

開催日	2026 年 1 月 21 日（水）
構成員等	丹羽康正部会長 はじめ 15 名 がん関係の各分野の専門医（4 名）、看護師、県医師会、県歯科医師会、県市長会、県小中学校長会、県がん診療連携協議会、県中小企業団体中央会、がん患者団体。がん経験者、県保健所長会（順不同）
協議事項 及び 検討状況等	<p>協議事項</p> <p>○ 第 4 期愛知県がん対策推進計画における令和 7 年度の主な本県の取組及び目標の進捗状況について 第 4 期愛知県がん対策推進計画における令和 7 年度の主な本県の取組（資料 2-1、2-2）及び目標の進捗状況（資料 2-3）について説明し、意見等をいただいた。</p> <p>（主な意見等）</p> <p>○ 愛知県は胃がんの生存率が低い。早期診断ができていない。がん検診が他県に比べて機能していないのか、諸般の要因があるのか、この問題について具体的なアクションをとるべきターゲットを整理して、取り組んでいくべきではないか。</p> <p>○ ゲノム医療について計画には、県民に対する知識の普及に努めるとあるが、取組についての記載がない。パネル検査の実施件数など拠点病院で行っているゲノム医療の情報は提供できるので、こういった取組を成果に入れてほしい。</p> <p>○ がん対策の予防の部分に関して、二次予防である検診が強調されているが、一次予防が大きく影響する特に子宮頸がんについては、ワクチン接種のことなども学校教育等と連携し、啓発してほしい。</p> <p>○ 一次予防の啓発については、国立がん研究センターが科学的根拠に基づくがん予防法を提唱しているので県のホームページで紹介してはどうか。</p> <p>○ 外部講師を活用したがん教育を実施したが、非常によかったので校長会で広めていきたいが、がん教育だけではなく、命の大切さや自殺予防など全て網羅する形でがんピア・サポーターの方に協力していただけるとよい。</p> <p>○ 『がんサポートブック』について 23 ページの「療養生活」についての情報が少ない。在宅医療の情報を増やしてほしい。</p>
今後の取組 の方向性	○ 当部会の意見を踏まえ、引き続き、市町村、関係機関、がん患者団体等と連携し、がん対策の取組を推進する。